

～水稻品質向上・収量安定対策～

今後も高温が続くことが予想されています

玄米の品質の低下が危惧されていますので
施肥管理と水管理にご注意ください。



1. 施肥対策 (注) あくまでも高温の場合の緊急対策です

- ①葉色が薄い場合※¹には穂揃期に追肥※²を行いましょう。
(※¹目安:穂揃期止葉葉色SPAD値30以下)
(※²穂揃期に窒素で1kg/10a)

追肥の時期が遅いとたんぱく含量を上げるおそれがありますのでご注意ください。

窒素 1 kg/ 10 a 施肥に必要な銘柄別施用量 (目安)

商品名	10a当たりの施用量	施肥窒素量
硫 安 (窒素21%)	5kg	1.05kg
塩 安 (窒素25%)	4kg	1.00kg

2. 水管理

幼穂形成期から成熟期までは、できる限り湛水状態を保ちましょう。(高温時の収穫前の早期落水は品質低下の原因となります)

JAグループ愛知